

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	川西市廃棄物減量等推進審議会		
事務局 (担当課)	市民環境部 美化推進課		
開催日時	令和3年9月22日(金) 午前10時～11時43分		
開催場所	オンライン会議(川西役所 庁議室)		
出席者	委員	花田 真理子、千葉 知世、南野 繁夫、金子 愛、 大田 正、山脇 健司、佐藤 恵美、茨木 実	
	その他		
	事務局	川西市理事(美化推進担当)、美化推進課長、 美化推進課課長補佐、美化推進課副主幹	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1.開会 2.議事 (1)川西市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について ・川西市のごみの排出量について(資料2) ・2020年度新たなごみ減量施策について(資料3-1) ・2021年度新たなごみ減量施策について(資料3-2) 3.その他		
会議結果	別紙 審議経過のとおり		

【開会】
事務局

お時間が参りましたので、「令和3年度 第1回川西市廃棄物減量等推進審議会」を開会させていただきます。

委員の皆様におかれましては、ご多忙にもかかわらずお集まりいただきありがとうございます。

私は、美化推進課の課長です。よろしくお願いいたします。

まず初めに、昨年の審議会で、今年度から「一般廃棄物処理基本計画」の策定を行うため、数回の審議会を開催させていただき予定であるというご案内をさせていただいておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、市の総合計画を始めとする計画の年度を1年遅らせることとなりました。令和6年度スタートということになりましたので、本基本計画を令和4年度、5年度の2ケ年で本格的に計画策定を実施し、令和6年度のスタートを目指すということです。ご了承くださいませよう、よろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、会長より挨拶をお願いいたします。

会長

はい。皆さん、改めましておはようございます。

どうぞ、本日はよろしくお願いいたします。

ただいまのご挨拶にあったように、当初、今年度、計画ということだったんですけども、他の状況を見てのことということになりましたので、今年度は、少しゆっくりとまいりますか、通常の年と同じような内容で行くということでございます。

ただし廃棄物をめぐる状況というのは、かなり国際的にも地域的にも、変わって来ることと思いますので、ぜひ来年度ですかね、確定のときには、皆様のご意見をたくさんいただいて、良い計画、生き生きとした計画にしていくように、皆様と一緒にやっていきたいと思います、ということで。

本日は議事が大きく2つございまして、川西市のごみの排出量についてということと、新たなごみ減量施策について、ということでございます。

この2つを一つずつ切って、皆様のご意見をお伺いしようと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

事務局

はい、ありがとうございました。

本日は、昨年度と同様、Web会議システムを活用しております。操作につきまして、いきなり不慣れのところをお見せするんですけども、至らない点もあるかと思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは先に、委員の変更がございますのでご紹介させていただきます。

関係事業者、阪急百貨店の委員が人事異動により退任され、新委員が着任されております。本日はオンラインでのご参加されております。

次に本日の委員の出席状況についてご報告させていただきます。

榎本委員から欠席のご連絡をいただいております。

ただ今オンラインで5名、市役所庁議室に3名ご出席いただいております、委員9名中、出席者は8名でございます。

つきましては、会議開催要件である過半数のご出席をいただいておりますので、川西市廃棄物減量等推進審議会条例第7条の規定により、本日の審議会は成立しておりますことをご報告いたします。

また、本会議ですが、「川西市参画と協働のまちづくり推進条例」第10条第3項の規定に基づき公開で行われております。現在のところ傍聴者は来られておりません。

それでは開催に先立ちまして、Web会議システムの方法による参加及び通信の確認を行いますけども、先ほど行いましたので、割愛させていただきます。

みなさんとは連絡の確認が取れておりますのでご報告させていただきます。

会長

はい、ありがとうございました。ただ今の報告について、承認させていただきます。今、資料1の委員名簿を画面に出してるつもりなんですけど、皆様のほうに見えますでしょうか。

委員

はい、出ております。

会長

じゃあ順調にいくと思いますので、よろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございます。

では、続きまして、本日のWeb会議について説明させていただきます。

- ・ 市がホストのため、事務局でWeb会議の管理を行います。
- ・ 質問、ご意見のある方は、挙手の上、お名前をおっしゃっていただき、議長に指名された方から順番にご発言をお願いいたします。
- ・ ご発言時は、冒頭に「意見」か「質問」か、などをおっしゃってから、発言願います。
- ・ 事務局から回答が必要な場合は、最後に「これこれの点について、事務局から回答願います」とご発言をいただくと助かります。
- ・ ご発言される場合は、ゆっくり、はっきり、大きめの声でお願いいたします。
- ・ 会議進行中にオンラインに不具合が生じた場合は、ZOOMのチャット機能、若しくは音声でお知らせください。チャット機能を使用する場合は、「事務局(ホスト)」あてにメッセージを送信してください。

・ 不具合等の対応で、事務局からZOOM設定の変更等をお願いする場合は、ご協力をお願いいたします。

・ 一切通信が繋がらなく、Web会議の参加が確認できない場合は、事務局から携帯電話に連絡をさせていただきます。

説明は以上です。ご質問はありますか。

はい、それでは、これより議事進行につきまして、議長をお願いしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

会長

はい、よろしくお願いいたします。

先ほどの議事でございますが、この議事次第に従って議事を進めていきたいと思っております。

まずですね、本日1年ぶりの審議会ということですので、委員名簿の順に自己紹介をお願いします。

今回はリモート会議ということでいつも以上に、ちょっと進行に手間取ると思いますが、ご容赦いただきまして、どうぞよろしくお願いいたします。

では、副会長お願いできますか。

副会長

大阪府立大学で専門は環境政策で、研究テーマの一つとしてごみも扱っております。どうぞよろしくお願いいたします。

会長

よろしくお願いいたします。次の委員お願いできますか。

委員

はい。牧の台コミュニティ会長でございます。以前、関係機関に勤めておりましたので、ごみの関係や炉とかについて興味を持っておりますので、また、参考にしていただけたらと思っております。以上です。

会長

よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

次の委員をお願いします。

委員

川西市PTA連合会の代表です。今年もよろしくお願いいたします。

保護者と子どもたちの立場から発言させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

会長

よろしくお願いいたします。では次の委員をお願いします。

委員

川西市環境衛生推進協議会の代表です。どうぞよろしくお願いいたします。

会長 次の委員お願いできますでしょうか。

委員 はい、この4月から川西阪急の総務部に着任しました。
当社のSDGsの取組方針に基づいて、川西阪急でも具体的な取り組みを開始しました。

川西阪急が廃棄物減量で、少しでも川西市に対して貢献できるよう、この1年皆様に情報等をいただきながら、進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

会長 よろしく願いいたします。阪急川西のロケーションがすごくよろしいので、こういう啓発とかいうことに、また川西のためにですね、ご協力をいただけたらありがたいかなと、内心思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員 はい、店として可能な限りでご協力させていただきます。

会長 ありがとうございます。次の委員お願いできますか。

委員 はい、皆さんこんにちは。家庭の中から、ごみがどれだけ減量できるかっていうことを、いつも考えております。

また、いろいろ発言させていただきたいので、よろしく願いいたします。

会長 どうぞよろしく願いいたします。では、次の委員お願いできますか。

委員 はい、私は国崎クリーンセンターを運営しております、猪名川上流広域ごみ処理施設の事務局長でございます。本日はどうぞよろしく願いいたします。

会長 どうぞよろしく願いいたします。

続きまして、事務局のご紹介をお願いできますでしょうか。

～ 事務局紹介 ～

会長 はい、ありがとうございました。

それではですね、改めまして本日の審議会の議事内容について、次第に沿ってということになると思いますが、事務局より、ご説明をお願いしたいと思います。

事務局 資料2と資料3に分けますので、資料2のところの説明のところ一旦、切っただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

はい。では次第に沿ってご報告させていただきます。

まず、資料2の方をご覧ください。

川西市のごみの排出量について、ご報告させていただきます。

資料が、今お手元にある方は資料の確認をお願いいたします。

資料1、委員名簿

資料2、川西市のごみの排出量について

資料3 - 1、2020年度 新たなおみ減量施策について

資料3 - 2、2021年度 新たなおみ減量施策について

それと、R(あー)かわにしの41号、42号、があると思います。

ご確認をお願いいたします。

それと、本会議は、終了を11時半頃までとさせていただきたいと思いますので、ご協力をよろしく願いいたします。

この会議録なんですけども、これを作成するために、本日の会議は録音させていただくとともに、会議録の承認につきましては、会長にご一任いただきたく、あわせてご了承をくださいますようお願いいたします。以上でございます。

会長 すみませんが、会議録ですけど副会長にも確認をお願いするっていうことでよろしいでしょうか。

事務局 わかりました。

会長 恐縮でございますが、1人より2人と思いますのでお願いいたします。

副会長 はい。承知しました。

会長 はい。よろしく願いいたします。

事務局 事務局から、資料の確認は以上でございます。

会長 資料の確認が終わりました。

それでは議題に移らせていただきます。

川西市一般廃棄物処理基本計画の進捗状況について、という、議題に移りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

事務局

皆様、資料2をご覧ください。

資料2「川西市のごみの排出量について」の、左上のグラフ「総ごみ排出量」と、「1人1日当たりのごみ排出量の推移について」をご覧ください。

この表で、一般廃棄物処理基本計画策定時の基準年度で、すみませんが一番左のグラフなんですけども、ここが、平成24年となっているんですけど、ここは平成22年の誤りで、各委員にお願いしたいんですけども、数字が一部変わってきます。

一番上の総ごみ量5万4,501トン、これが5万4,477トン。

次に1日あたりが、927.6グラム、その下にいきまして、事業系が1万2,479トン。

その下は、家庭系、4万1,999トン、となります。

申し訳ございません。訂正をお願いいたします。

会長

はい、基準年度が今出ているのが、平成24年度ですが、それが、基準が、平成22年度だったということですか。

事務局

そうでございます。

会長

はい、それで今見せていただいている平成24年度と平成22年度と比べると、どちらのほうが多いのですか。

事務局

総ごみ量で言いますと、平成22年が5万4,477トン、平成24年が、5万4,501トンです。

会長

平成22年度の方が、ちょっと少ないのかな。

事務局

そうです、24トン少ないです。すみませんでした。

会長

家庭系、事業系もそれぞれちょっと少ないですか。

事務局

家庭系は、少し多くなります。52トン多くなります。

事業系は、75トン少なくなります。

会長

なぜお聞きしたかっていうと、基準年からどれだけ増えたとか、減ったとか言いますので、この基準年が今出てるのより、少ないっていうことは、その基準が少ないっていうことですから、例えば増え方とか減り方は、大きく出てくるはずですよ。

事務局

はい。

会長

基準年より多かったら、ちょっとではありますけど、増減が小さく出るというようなことで、委員の皆様にご認識していただけたらいいかなと思ってお聞きしました。

はい、ありがとうございます。続けてお願いします。

事務局

ありがとうございます。そしてその右側ですけども、平成30年度から、昨年、令和2年度と目標値である「令和4年度の総排出量」の、家庭系と事業系を棒グラフで表しております。

また、「1人1日当たりのごみの排出量」を折れ線グラフであらわしています。

次に下の表、「ごみ排出量」をご覧ください。

この表は、平成30年度から令和2年度、令和2年度までのごみ排出量を、分別区分ごとにあらわしています。総ごみ排出量は、前年度より、前年度対比で1,295.3トンの減となりました。

内訳として、下から7段目と8段目、おわかりになりますでしょうか。

国崎クリーンセンターへの直接搬入、という、直接搬入というところをご覧ください。その一番右側の対前年比で、資源物が、115.9トン、燃やすごみが961.1トン、合計で1,077トン減少しております。

これは新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発令により、感染防止対策、感染拡大防止の観点から、令和2年5月6月は家庭系の持込みの搬入受け付けを中止したことによるものであると考えております。

他には、下から4段目、「再生資源集団回収量」をご覧ください。前年と比較すると、446.5トン、減少しております。

集団回収の減少につきましては、この表の右下の枠をご覧ください。

「再生資源集団回収量」と書かれているところですけども、新聞紙の発行部数が年々減少しているということ。自治会加入率の低下や、インターネット等の普及により、新聞や雑誌の購読者が減っていることなどが、減少の原因であると考えております。

また新型コロナウイルス感染拡大により、輸出先リサイクル工場が操業を停止するなどし、排出を一時中止したことも影響があるかと思われます。

次に表の一番上、人口の一段下にあります「燃やすごみ」をご覧ください。

令和2年度は4月上旬から新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言が発令され、外出自粛に伴う家の片付け等の影響や、使い捨てマスク或いは消毒等で、使用したティッシュ等の廃棄で、排出量が増加するとは思われましたが、令和元年度よりも1.1トンの減少となっております。

直営と委託で、一番右側、1,600トンあまりの増減がございますが、これは令和2年度から、直営の収集区域の一部を委託化したための増減でございます。

次に、上から7段目「ペットボトル」の欄をご覧ください。

ペットボトルの排出は年々増加していますが、これは飲料容器がカンからペットボトルに転向され、販売消費されているためだと思われます。

「ごみの排出量」につきましては、ごみの排出量について、令和元年度までは増加傾向にありましたが、令和2年度は僅かに減少しております。

今後も引き続き、ごみの発生抑制の周知、啓発に努めて参ります。

次に、右側上段をご覧ください。「家庭系大型ごみ排出量」でございます。

大型ごみが有料化になる前の年の平成27年度は、駆け込み排出があったため、対前年比で168%増加いたしました。そのあとは徐々に減少しております。

その下「リサイクル量」をご覧ください。

この下の表は、平成30年度から令和2年度のリサイクルについて表しております。

プラスチック製容器包装と、カン、ビンにつきましては、昨年度と比べますと、実際、リサイクル量が増加しております。

ごみを適正に処分し、リサイクルすることも必要ですが、ごみを出さないことが重要ということですので、今後も引き続き、広報誌「Rかわにし」や、チラシ等を配布するなどして、発生抑制リデュースや、再利用リユースについて啓発をして参ります。

以上資料2の説明でございます。

会長、よろしくお願いいたします。

会長

はい、ありがとうございました。

ご質問とかご意見とかありましたら、ミュートを外して、お声掛けいただけましたらと思いますがいかがでしょうか。

特に紙ですね。再生資源の集団回収量が減っているというのは、もうこれ全国的な傾向でございますね。

それから最後におっしゃった、リサイクル率を高めるということも大切なのですが、発生抑制というのが一番大切というお話がありまして、それを、どうしていったらいいかということを考えるのが、この審議会かなと思いますし、そういう方向に動いていくように、計画を作っていけたらな、というふうに考えるところでございます。

皆様いかがですか。ご質問とか、ご意見とか、よろしいですか。

では、事務局にお願いしたいんですが、今、基準年ここ変わったというお話で、数字おっしゃったんですが、修正した資料を再度、終わった後でもちろん構わないので、委員の皆様にお送りいただけますでしょうか。

口頭の修正だったので、基準年はここで、こういう数値からこうなってます、っていうのを大した違いではないかもしれませんが、ちゃんと正しい資料を再送していただくということによろしいでしょうか。

事務局 はい、わかりました。申し訳ございませんでした。

会長 ありがとうございます。
では続きましてですね、議題の2つ目ですけれども、「新たなごみ減量施策について」ということで、これによろしゅうございますか。
資料の3 - 1と資料3 - 2で、まず資料3 - 1をお願いいたします。

事務局 はい。それでは資料3 - 1新たなごみ減量施策についてご説明をいたします。
平成25年に当審議会から新たなごみ減量化施策として、検討施策1「啓発ツールの作成・活用」、検討施策2「啓発促進システムの構築」、検討施策3「大型ごみの有料化」、施策4「ごみ袋の色指定制の導入」、以上4つの提言をいただきました。
令和2年度に実施した事業内容を順に説明させていただきます。
検討施策1「啓発ツールの作成・活用」をご覧ください。
まず1つ目の「R かわにし」の発行ですが、年2回、継続した形で発行をしております。
お手元に「R かわにし」の42号がございますでしょうか。すいません無い方は申し訳ございません。
この42号では、美化推進課で取り組むSDGsの特集を掲載しております。
ページをめくっていただきますと、2年度に実施しました事業を紹介しております。
SDGs169のターゲットのうち、「リサイクルリユースにより廃棄物の排出量を大幅に削減」として「リユース子ども服の譲渡会『ふくれル』」と、「リユース情報誌『りぼん』」また、「食品廃棄物の半減」として、「給食、お弁当食べ切りラリー」を実施、左のページに移りまして、「海洋ごみを削減する」として「mottECO(もってこ)マイバックキャンペーン」の事業を紹介いたしております。
それでは資料に沿ってご説明させていただきます。
当面、次の下側の食べ残しゼロ運動につきましては、引き続き、食べ残しゼロ運動協力店舗を募集しておりますが、昨年度は登録いただいている店舗を対象に、「mottECO(もってこ)マイバック」の配布を行いました。
この、「mottECO(もってこ)マイバック」の、「mottECO(もってこ)」のロゴは、環境省が開催した、「Newドギーバッグアイデアコンテスト」のネーミング部門で大賞に輝いた作品であります。
「もっとエコ」「持って帰ろう」というメッセージが込められており、登録店舗内で飲食や食べきれなかった料理を持って帰る場合、またテイクアウト利用等持ち帰ってもらう場合に、バックに入れてお渡しするといったものです。
お店でもらったバックは、今後もらった店での使用や、買物時のマイバックとして

活用していただくというものでございます。

今回は登録飲食店のうち、14店舗に協力をいただきました。

次に、検討施策2「啓発促進システムの構築」についてでございます。

「子ども向け学習会」と「大人向け出前講座」ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、学習会、出前講座の受付は、緊急事態発言中、中止をしており、解除された期間に申込みを受付けるなどしましたが、例年よりも大幅に減少いたしました。

そこで、子どもを対象とした「給食・お弁当食べきりラリー2020冬」を実施しました。資料右側をご覧ください。

これは、コロナ禍で、保育所や幼稚園で学習会が開催できない中、子どもたちがごみ減量に取り組める方法として、我々が、保育所、幼稚園に出向かなくてもごみ減量を伝える方法はないかと考え、ごみ減量啓発キャラクターが動画で、子どもたちに「残さず食べよう」と、話し掛けてお弁当や給食を食べ切った、或いは、いつもより頑張った子どもたちに、前もって配布したスタンプカードに先生がシールを貼る、といったものでございます。

期間は1月18日から2月5日のうち、いつからでも何日でもいいので、その期間にチャレンジをしてもらおうといった内容です。

市内の保育所幼稚園、47園中10ヶ所、765名の3歳から5歳の子どもたちが、この取組に参加しました。

「クリーンジャーとの約束を守るため、嫌いなものを頑張って食べていた」「クラスで食べるという目標を共有し、楽しく、無理なく取り組めた」「今後も活用していきたい」といった、先生からの報告を受けております。

また、家に帰っても、残さず食べるようになったなど、変化が見られたと、保護者の方からの喜びの声が聞けたという報告もございました。

今年度についても、コロナ禍で学習会が開催できない中、「何度も使って大切にお片付けミッション2021秋」というのを実施いたします。

後程資料3の資料でご説明をさせていただきます。

これはクラス全員で物を大切に、お片付けをしてもらいクラス全員が頑張れば、スタンプカードにシールを貼ってもらえるといったイベントでございます。

現在、参加者を募集しております。実施期間は、9月27日から10月15日の間で5日間を予定しています。

これにつきましては、来年度の審議会でのご報告となると考えております。

次に、資料左下、「子ども服リユース『ふくれル』」についてです。

コロナ禍において、会場でのイベントが開催出来ない中、令和2年の夏と秋は「ネットdeふくれル」と称して、インターネットを利用して、こちらでサイズごとにコーディネートした服を、数セット用意して、申込みを受付ました。

緊急事態宣言中で、外出も出来ないときでもあり、インターネットで参加出来てよかったという声がある中、やはり実際手にとってみたいという声もございました。

そこで、令和3年3月13日に、感染防止対策をしっかりとった上で、会場での開催を行いました。

49名の応募があり、同伴者を含め73名参加、74kg減量となり、子ども服を必要とされている方へ、リユースと、減量をすることが出来たということでございます。

次に、右側の下、検討施策3「大型ごみの有料化」につきましては、有料化の前の、平成28年4月までは、駆け込み排出により、前年度よりも約1,900t増加いたしましたが、有料化が始まって5年が経過し、現在は、ようやく排出量が落ちてきたというふうに考えております。

次に、検討施策4「ごみ袋の色指定の導入」についてですが、ごみ袋の中身が見えることにより、資源化可能なごみの分別の徹底や再資源化を促進するため、平成29年2月からごみ袋の色指定を行いました。

それまでには、黒い袋でもよかったものが、透明半透明の袋しか収集をしないということで色の指定をさせていただいたものですが、やはり当初は、黒の袋で出されていましたが、現在は透明や半透明で出させていただいております。

これにつきましても、ごみの減量に効果があったものと考えております。

次に、資料3-2は、これは今年度行う減量施策についてで、紹介をさせていただきます。

先ほどもご紹介させていただきましたけども「何度も使って大切に。お片付けミッション2021秋」についての掲載をさせていただいております。

物を大事に使う、ごみにならないように気を付けようと、お片付けを促す企画を実施いたします。

その下、ごみ減量リサイクル推進の啓発に係る動画作成につきましては、現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年実施しています子ども向け学習会、大人向け出前講座の出来ない状態でございます。

今後の学習会や出前講座、オンライン学習に対応した教材を作成することで、ごみの減量啓発につなげるため、現在、動画を作成しているところでございます。

このように、昨年度はコロナ禍において、今まで実施していた、バスツアーなどのイベントを開催することが出来ませんでした。これらのように工夫して、新しい生活様式に対応した新たな啓発方法についても、今後検討して参りたいというふうに考えてございます。

以上、資料3-1・資料3-2につきましても説明を終わらせていただきます。

会長

はい、ありがとうございました。

それではですね、質疑応答ということでございますが、今までの現状のご説明が

あり、それから、新たな施策ということで、こういう施策を打っていますという、ご説明がありました。

川西市さんは、ごみを出さないっていう、食べ残しゼロ運動PRキャラクター完食戦士の中年カラダさんでしたっけ、とか、とてもユニークな取組で楽しく取り組んでらっしゃるのがすごくいいなと思いながら、お話を伺っていました。

委員の皆様どこからでも結構ですので、自由にご発言をいただけますでしょうか。ご発言のある方はミュートを外していただいて、お話しいただけますでしょうか。

今、全部写っておりますので、アクションっていうところのリアクションっていうところで手を挙げるっていうのがありますのでいかがでしょう。自由に、どうぞ。

なかなか対面だと気軽にご発言していただけるんですけど、そしたらせっかくですから皆さんからご意見いただこうかなと思ってますので、私が今見えてる画面の順で、お願いできますか。

委員

はい。私が今、家庭の中でごみを減らすっていうことで、考えて実行しているのが、食品のラップを使わないっていうのを今やっています。

今、ラップすごく便利で、何でもラップに包んだりとかラップでレンジでチンしたりとか、ラップを3種類、大中小っていう感じですがすごくたくさん使ってたんです。今から考えてみると、それをやっぱプラスチックごみを減量しようと思ひまして、レンジでチンするときは、何か100円ショップとかで売ってるなんか、プラスチックの蓋みたいなものを使ってるんですよ。そういうので蓋をしてチンをすると、全然ラップがいらなくて、その蓋は洗って何回でも使えるんです。

そういうのと、あと陶器の器に何かおかずとかを入れて食べた後、残ったらすぐにラップとかしてたんですけど、それをやめて、その陶器の器から、蓋つきのタッパーに移すようにしたんです。

そして、極力ラップを使わないように、っていう意識をしてやると、本当に使わなくなりました。

ですから、一つの家庭の減量できてるグラム数にすると、どれぐらいなるかわからないんですけど、すごい些細なことですけど、使い続けたことを反省して、ほんとに多分10分の1ぐらいに、減ってると思いますので、プラスチックをどうにか減らしたいと思いましたので、そういうことを考えて、今実行しております。以上です。

会長

ありがとうございます。1つの家庭がとおっしゃってましたけど、そういうのが集まって、社会になるわけですので、まさに大きな一歩かな、というふうにお聞きしておりました。

あとは100円ショップの蓋は、私ちょっとごめんなさい詳しく知らないんですけど、結構評判がいいということ、テレビでやっていたような気がします。

あとは、蜜蝋のラップみたいなのがあって、そんなのも、お肉はちょっと駄目らしいんですけど、後のものはいけるっていうふうにお聞きしてて、今お話ししてて、工夫をすれば、何かちょっと新しいことにチャレンジするっていうところが、楽しさに繋がると、いいなあ、と思いました。

なかなか、べきだ、とか強制とかがつらいんですけど、どうもありがとうございました。続きましてですね、私から見えている順番で、お願いできますでしょうか。

委員

はい。先ほど説明いただきました、大型ごみの有料化が平成28年5月から導入ということで、この前年度まではすごい量が出てたと思うんです。

有料化になる前に捨てられたのかな、と思ってるんですけど、この傾向は今現在は減っていますかね。

それと、もう1点は、資料2なんですけども、燃やすごみの直営と委託が、委託したから1,633.1トン減ってるという形で、これは今後ともそういう傾向で委託されるっていうことなんですかね。それらをお聞きしたいなと思うんです。

あと、再生資源の回収量の新聞なんですけど、最近若い人達は新聞とらなく、全てスマホとかで、解決してしまいますので、我々、今現在、自治会等で回収してますけど、どんどん減っています。

それともう1点は、アルミ缶が増えてますけれども、実際、市の回収前に先に回収されているんです。私どもの地区では金曜日が収集日なんですけども、先に誰かが持って行っちゃうということも多いので、これも、今後、何とかしてもらえたらいいなと思ってます。

それと「給食・お弁当食べ切りラリー」ということなんですけど、子どもたちが、スタンプカードにシールを貼ることで何かメリットがあるんですか。

シールを張るだけで終わりですか。何か、子どもが喜ぶ物がないのかな、と思っています。

それから、検討施策4の、ごみ袋の色指定導入が平成29年2月導入済みですけども、川西市としてはごみの袋の有料化というのは、お考えは全くないでしょうか。

以上それぐらい聞きたいと思います。

会長

はい、ありがとうございました。

まずですね、大型ごみの最初の傾向の話と、ごみの減り方とかの質問が2つあったと思うんですが、そこらご回答の説明をお願いできますでしょうか。

事務局

大型ごみの排出量なんですけども、資料2の表を見ていただくと、平成24年度が大型ごみ、計で2,651トンで、平成28年度の5月から行ったのが有料化で、現在、令和2年度で1,577.9トンです。

平成29年平成30年度よりも少し増えてる傾向はあるのですが、大体まあこれぐらいで落ち着いていってます。

だから平成24年で2,600トンが今大体1,600トンぐらいまで落ちていて、これですっと落ち着いてくればいいな、というように思っています。

それと直営と委託の件なんですけども、これが資料2のところのごみ排出量に出ていますけども、1,633トンが直営で、委託分が1,632トン増ということで、大体ですけどパッカー車2台分と言ってるんですけども、その地区を直営でやった分を委託に出したということで、その辺が変わったといいますか、直営で集めたものを委託で集めていただいているということですので、これはこれからも一緒に、こういうふうになってきますし、来年度4月から、委託のやり方を変えていきます。

今までは例えばビンだったら、1社で、全地区を集めてたんですけども、これからは地区ごとに、1社が燃やすごみもビンもカンも集めます、といった変更をさせていただきますので、その点は来年度には変わる、ということでございます。

あと、カンの持ち去りの件ですが、これはよくお手紙の提言でもいただくことがあって、それはやっぱり何とかして条例化とかはどうですか、というようなことを言われるのですが、今のところ条例化というのは難しいかなと、条例だけの抑止力でやるのはどうかな、というふうに考えてます。これはまた今後考えていかないといけない課題だというふうに考えております。

あと、色指定してから有料化ということなんですけども、これはやっぱり審議会での議論も必要かなというふうに考えてますので、我々今何かこういう、検討してるかという、検討はしております。

今後やっぱり減量が進まない、ということになれば、この審議会でもご審議いただいて、これも一つの施策として、答申をいただくのかどうかというところだと考えております。

会長

せっかくなので、他の委員にちょっと、お聞きしてみたらどうでしょうか。もしご関係の、お子様を通じてみたいなのがもしあったら、教えていただけますか。

シールを貼る以外にメリットはあるんでしょうかということですが、シール自体が子どもにとってはメリットなんですよね。

どっかでテレビで見たんですけど、子どもってシールが好きじゃないですか。

なぜシールが好きかっていうのをやって、テレビだから学術的なことじゃないんですけど、簡単に達成感が得られるそうです。だから子どもがシール好きなので、なかなかね、大人は、他にメリットあるのかと、お感じになると思いますけど、子どもにとってはシールがメリットなのです。

私もシール大好きです。

最後におっしゃっていただいた有料化のことなんですけど、有料化を進めたほう

がいいってような感じで、お聞きいただいたんでしょうか。

委員 一応、受益者負担ということで、全部が全部税金で賄うのは大変でしょうから、何らかの形で、不法投棄の関係はありますけども、やられたらどうかなという気持ちは持っています。

会長 お立場から、いろいろ情報入ってくると思うんですけど、市民の方の意識みたいなのはいかがですか。

委員 はっきり言って有料化は反対ですわね。

会長 だから今おっしゃっていただいた、無料ってというのは、税金だから不公平なんだっていう話とか、そのままとそれから減量に繋がらないというようなことを、粘り強く、ご説明していくってことかなって思いますけど、いかがでしょう。

委員 そうですね。是非考えていただいたほうがいいんじゃないかと思います。

会長 はい。ありがとうございます。
では次の委員お願いできますか。

委員 はい、我々直接的にというわけではなかったんですけども、国崎クリンセンターは燃やしてる所で、ただ、資料3のところで、これからの施策っていうのが紹介されているんですけども。

実は我々も啓発施設を持っておりまして、そこの指定管理者が今年で入れ替わると、いう形にしてまして、今ちょうど選定委員会を開いているところなんです。

その中で、一番今年の、いわゆるその仕様の中でですね、各市町と連携をして事業をする大きな課題を挙げております。

来年度に向けて、いろいろとですね、各市町、構成市町、川西市も構成市町なんですけれども、あと猪名川町、豊能町、能勢町というのがございますけれども。そのいわゆる環境ごみ関係の担当者とですね、一度、ヒアリングをさせていただいて、我々が何ができるのかというのを、指定管理というのもプロ集団なので、一応魅せる的にはすごく長けておりますのでね、各市町さんと連携をしてですね、その政策自体にも、我々も関わっていければなあと、ということで今考えている最中でございます。

ただ我々も人を寄せるようなファミリーフリーマーケットでありますとか、そういうのもやっておりますけれども、そんな中でもですね、例えば啓発ブースを一つ設けて、

各市町さんに何かやっていただくとか、いろいろな方法も考えられると思うんでちょっとその辺、来年度に向けて色々検討していきたいな、というふうに考えてございますので、よろしくお願いいたします。

会長

ありがとうございました。

今最後におっしゃった各首長さんに何かやっていただくっていうのって、すごいと思うんですね。

実際に自治体職員の方からお聞きした話なんですけど、3年ぐらい前、まだSDGsって何のこと？っていう感じだった時に、首長さんにSDGsを知ってもらう方法として、講演会か何かをやっていただいたんですって。

そしたら、首長さん、勉強しなきゃいけないじゃないですか。で、そしたら、そういうことなのかと思って、すごくこの政策として取り組むようになった、っていうお話を聞いたことがあるので、是非ですね、そういう機会を捉えて、是非積極的に政策にもそのための、多分、委員がここにいてくださってるってことかなと思うので、またご意見、是非よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。では次の委員お願いできますでしょうか。

委員

はい、我々のお店のお話をさせていただきますと、最初の挨拶の時に、当社のSDGsの取組方針に基づいてとお話ししましたが、まず、百貨店でよく出るプラスチックハンガーの処理に関して取り組みました。

このプラスチックハンガーには実は業界統一のリサイクルハンガーというものがあって、そのハンガーにはマークがついています。今までは、ハンガーは全て普通のプラスチックとして廃棄しておりましたが、業界統一ハンガーのマークがついているハンガーは全て統一ハンガー協議会というところに送付し、リユースするように7月から開始しました。始まったばかりですが、8月でハンガーとしてのごみの量は、40%減っております。

ちなみに、ハンガーの昨年8月の量は700kg程あったのですが、業界統一ハンガーをリサイクルすることで、460kg程減っております。

もう一つ、川西阪急内でサステナビリティ推進チームを作っておりまして、その中で、従業員への啓蒙活動の一環で、脱炭素チャレンジカップと題したキャンペーンを8月末に1週間実施しました。

これは簡単なアンケートに答えていく形です。

例えば、シャワーを1分短くしましたとか、炊飯器って保温を止めて、冷凍庫にご飯を保存しましたとか、予め用意しておいた10項目の質問に対して該当する項目に○を入れていき、どれだけ参加者自身が二酸化炭素排出量を減らせたかを申告するものです。

個々の回答を何種類かのチームでくり、順位を競いました。

第1回目としては意外に参加が多く、300名ほどが参加しました。

先程、お子様向けに啓蒙活動として「お片付けミッション」で頑張ればスタンプカードにシールを貼るというお話がありましたが、大人はシールでは喜びませんので、1位から3位にはどういった景品にすればいいか考えているところです。

少し長くなるのですが、あともう1つ、百貨店はごみが結構出る中、川西阪急は食料品売場が非常に賑わっておりますので、生ごみが結構出てきます。

その生ごみを廃棄するのではなくて、肥料などにリサイクルに回す術がないかも検討しております。

川西阪急では一般廃棄物に占める食品関連ごみは半分くらいありますので、生ごみをいかに減らし、リサイクルに回すかということが大事になってくると考えています。

ただこれについては、店単独では難しい取り組みなので会社として進めていくことになるかと思っておりますので、少し時間が必要かもしれません。

こんなもんでよろしゅうございますか。

会長

ありがとうございました。

そのチャレンジの期間ってどれくらいだったんですか。

委員

飽きないように一旦1週間です。

会長

なるほど。で300名くらい参加して下さったってことですけど、これ全体の何割くらいの方なんでしょうか。

委員

社員換算ですと、ほぼ全員のような感じですね。

ただ、派遣といいますが、お取引先さんから来られている方はその倍以上いますので、お取引先スタッフの中でも積極的に参加して下さる方と、そうでない方の温度差があるので、そこを次回どうするかが課題です。

ちなみに社員はほぼ全員参加でした。

会長

お聞きしていて、いいなと思ったのがまず、売場単位っていう、この集団で競うっていうところが、自分のためっていうより、何かみんな頑張ろうっていうほうが、っていう行動経済学ですね、っていうのがいいなと思いました。後、景品についてはまた考えてらっしゃるっていうことですけど、是非ですね、ちょっと面白くて、さらにエコのことを考えるきっかけになるような物を、景品にさせていただくといいかなって思ったりいたしました。

あと少し、生ごみなんですけど、例えば生協さんなんかは、ご自身の畑があるってこともそうですけど、納入される所に持って行ってもらう、っていうようなことをされてみたいんです。

だから、百貨店とは全然形態違うと思いますけれども、何かそういう納入業者さんとサプライチェーンを通じて取り組んでいかれるといいのかなって、少しお話を伺いながら思っていました。ありがとうございました。

委員 こちらこそ、貴重なアドバイスありがとうございます。

会長 本当に面白いチャレンジです。
大人はシールを貼るって訳にはいきませんので、ちょっとおもしろかったです。
次の委員お願いできますか。

委員 家庭でスポンジ、家庭用の洗剤に使いますスポンジのかわりに、ヘチマはどうかと思うんですけどね。

ヘチマは使い終わると自然に帰りますし、グリーンカーテンにもなりますし、何年か前に作って失敗したんですけども、再度挑戦したいと思っています。

それから家庭では、中性洗剤をよく使われると思うんですけども、中性洗剤は、血液をなんか3倍くらい汚すらしいんですね。ガンに影響あるということも言われているんですよ。だから固形の食器洗い洗剤を使ったらどうかと思うんですね。そして容器も削減に繋がります。

これはできるかどうかわかりませんが、私らは小さい頃はお菓子をその場で計りで買ってたんです。これは色々難しい問題あると思いますが、これをやればプラスチックの削減にだいぶ繋がると思うんですよ。

あと、昆虫で特にコオロギを冷凍粉碎保存して、せんべいになっている自動販売機があります。

もう1つアメリカミズアブのハエの一種の成虫で幅広い食性が特徴で、玉ねぎの皮やキャベツの芯といった野菜に付いていてこれも成功すれば、食品廃棄物削減に繋がるのではないかとされています。

ちょっと雑談になりましたけど、以上でございます。

会長 はい、ありがとうございました。

いくつかアイデアをいただきました。それで、計り売りとかですね、あと、そういうこう、何ていうのか例えば、シリアル、お菓子みたいなものでも、ちょっとボタンを押すと、その量だけ出てくるみたいなんですね。「バルク」っていうんですけど、そういう買い方、売り方っていうのが、だんだん増えてくるんじゃないかなというふうに、思っ

ています。

それから昆虫で、今コオロギさんが結構普及というか、粉にすると完全に何か、海老とかカニとかの感じなんだそうです。すみません、私は食べてないんだけど。

で、その後におっしゃっていただいたアメリカミズアブなんですけど、ブラックソルジャーフライと言ってアメリカで今研究してるのが、その幼虫さんにごみを食べてもらおうというところです。

それで、その働いてくれた幼虫さんが、いいエサになるんですって。

鶏とか、それから養殖のお魚とかのエサに。向こうからしたら踏んだり蹴ったりですけど、働かされた上に、エサにされちゃうっていうことですけど。

それで結構食欲があって生ごみを食べるって話だったんですが、温度管理がちょっと大変じゃないかなと思っています。というのは、実は3年くらい前に、アメリカミズアブやミミズで生ごみを減らすというテーマで卒論をやった学生がいるんです。それで、ミミズさんは手に入るんですけど、アメリカミズアブさんはどうしましようということになりまして、絶対に逃がしませんという一筆を書いて研究所からミズアブを頂いてきて実験をやったんです。ところが寒くなるとあまり食べないんですよ、生ごみはあまり減らなかったんです。最終的にミズアブは絶対処分しろと言われてたので、最後はごめんなさいだったんですけど。

これからのビジネスありかもしれないな、と思っています。

だから色んなかたちで、使えるというか、昆虫さんに頑張ってもらおうと、これから食糧のことが問題ですからね。

また、もしどなたか昆虫を食べる機会があったら、感想をお聞きたいと思っています。貴重なご意見ありがとうございました。

次の委員をお願いします。

委員

はい。私たち子育て中の世代なんですけども、子育て中って、ちょっとごみが減らしにくい世代だなんていうふうに思っていて。その生活の中で、何かあったらビニールの小分け袋に入れるとか、食べ物のお菓子をね、子どもたち食べるんですけど、お菓子のプラゴミってものすごい多く、外装もあって中にこうカップもついてて、って感じで、すごく多いんです。生活していく上ではちょっと減らしにくい年代だなんていうふうに思うんですけど、でも、ごみを減量するっていう観点から見たら、それに、甘えたままでもいられないので、やっぱり分別をきちんとすることと、あと、水気をちゃんと切ることで、これっていう新しさはないんだけど、当たり前のことを徹底していくっていう意識を、みんなで持つことが大事かなっていうふうに感じています。

生活の一部に、その、ごみを減らしながら、生活するんだっていう意識を入れていけたらなって、思います。

だからこそ、ごみを捨てやすくしていただきたいなって。貯めちゃうとやっぱり大ざっ

ぱになるし、出しにくいんだけど。こまめに出せるように、生活に寄り添ったようなごみの収集をしていただきたいなあって思います。

さっき委員さんがおっしゃってた、燃やすごみの直営と委託の話なんですけど、パッカー2台分のところは委託で、今行われてるっていうふうに先ほど、ご回答あったんですが、市内の友人から聞いたんですけど、個別集配を行ってる地区があるっていうふうに聞いたんです。

それは民間の収集じゃなくて、市の緑色のパッカーが回って来るとか。

私は川西の北部に住んでるんですが、あるステーションでこう出すっていう生活をしているんですけども、その方は、家の前に置いておくと、ピックアップして回ってくれるんだ、っていうふうに言うんです。

それが本当なのかって言うのと、もしかしてそれは委託業者さんなのかなっていうのと、若干、疑問を先ほどのお話で思い出しました。すみません。

以上でございます。

会長 今のその最後の点ですけど事務局、ちょっとご説明お願いできますか。

事務局 直営と委託の件で、戸別収集の件なんですけど、おそらく委員が今お住まいのところ北部ということなので、10軒20軒ぐらい集まっていたら1個のステーションでお出しいただいているのかと思ってます。

南のほうの地区で、道が狭いとか、出す所がないよ、とかいうところで、なかなかその10軒20軒を集めて回収を行うということが難しいところがございます。

そういう所に関してはもうちょっと細分化をしています。2件3件でも集まっていたらそこで回収車が行って収集、という所がございます。

それともう1点これはもう昔からのことなんですけども、川西市は元は戸別収集だったんですね。これも、かなり昔の話なんですけども、それも南のほうの地区なんですけど、敷地の大きい地区というのは、その名残がまだ残ってる所が、本当にもう少ないんですけどありまして、そういうところで、敷地がでかい屋敷というような感じのところなんですけども、そういうところで、戸別収集みたいになっているところがあるというふうには認識しております。以上でございます。

会長 ありがとうございます。委員よろしいでしょうか。

委員 はい、ありがとうございます。

会長 今の件ですけど、捨てやすくということも、もちろん考えていかなければいけないんですけど、逆にですね、捨てにくくして考えてもらおうという方法もあるかもしれな

い。例えば、おっしゃっていただいた分別ですが、みんな一緒に捨ててよいなら捨てやすいんですけど、分けると、捨てにくくなりますけど、分別することで、意識するっていうところはあるかなって思うので、捨てやすくするのか、捨てにくくするのか、にくくってというのはちょっと変な言い方ですけど、ちょっと考えてもらえるような捨て方にするのか、っていうのは、また皆さんも市の方と一緒に考えていかれるかな、いったらいいかなと思うんです。

前、お話したかもしれませんが、東京都なんか、区によってですけど、そのごみステーションで、リサイクルの日は、何ていうかパタパタって折り畳むのを広げて箱みたいになるやつですね、あれにピンとかカンを袋に入れなくてそのまま出すんです。そうすると、例えば中に残ったままで出す、っていうのはちょっと有り得ないんですね。

で、そうなってくると、濯いで、出すようになったりとかいうことがあるので、それも、捨てやすいか捨てにくいと考えたら、捨てにくいことになるかなと思うんですけど、そんなことでですね、どうやったらいいかなっていうのは、考えていくテーマだなあと思いいながらお聞きしてました。

それから水分を切って、重さを減らす時にはすごく大切で、重さでごみ減らすと考えたときに、一つは水分、で、もう一つは紙なんですよ。紙は重いので。

あの一つ、先ほど、集団回収減ってきました、っていうお話だったんですけど、雑紙といって、今までは捨ててたよ、っていうような包み紙とか、それこそ本当に小さなこういう説明の紙とか、書類とかそういうのも全部もう燃やすごみじゃなくて、そっちに出すっていうようにしてくと、ごみが減って、いいのかなと思いました。

水分を切るってのは、でもこれ難しいんですよ。生ごみの水分という、1絞りとかいうことなんですけど、やっぱりちょっと、綺麗か汚いかっていうと、どっちかというところのほうなので、なかなか難しいかなと思いました。

子育てがごみを減らしにくい、って本当にそうだと思います。一方で、子育てのときは、子どもと一緒に例えばゲーム感覚で楽しむとかもいいと思います。それから子どもってすごいキラコンテンツで、お子さんにわかってもらうと、親御さんに話し、もっと強力なのは、おじいさま、おばあさまです。もうお孫さんに言われたらまずやってくたさいますから、ちょっとそんなふうにかう持つてくといいいのかなって思いました。

最後にお菓子の袋、本当にそうですね。

さっきちょっとちらっとお話したんですけど、例えば、私見たのは外国なんですけど、お菓子のグミなんかでもそういうバルクの量り売りのケースに入っているんですね。ボタンを押すと出てくるのがいっぱい、いろんなのが並んでいるから綺麗なんですね。

あとチョコレートや、クッキー、シリアルとかがみんなバルクで、量り売りを頑張っている店がありましたね。

だから、だんだんそうなっていったらいる量だけ買えますしね、と思いながらお聞きしてました。ありがとうございました。

そうしましたら、お待たせしました、副会長お願いできますか。

副会長

はい、ありがとうございます。

すいません、ちょっと私45分から別件会議ありまして、ちょっと走りになるかもしれませんが。

会長

申し訳ない。

副会長

とんでもないです。

ではまずこっちコメントからなんですけれども、今日いただいた資料の2のところ「リサイクル量」をあらわしている表があったかと思うんですけど、これリサイクル率が全体の合計値でしか示されていないので、できれば各項目ごとにですね、リサイクルの率も示していただけるとより現状が分かるかと思うので、次回以降検討いただければ幸いです。

あとは幾つかあったんですけど、時間もあるかと思うので絞って、気になったのがペットボトルが増えているということなんですけれども。

ちょっと前の、以前の資料とかを見ていると平成22年のときだとペットボトル190トンって書いてあったんですね。今回のものを見ると令和2年度で272トン。

この間、10年間で、およそ100トン増えているっていうことに、単純に見るとそうなっていて非常に大きな、増え幅かなと思います。

ペットボトルはもちろん石油原料由来だということもあって、もちろん地球温暖化気候変動の問題というのがありますし、リサイクル量のところ見ると排出量が増える一方で、リサイクルの量が減っているところがあって、リサイクルの率自体が下がってしまっているっていうのもあるので、ここはちょっと、重点的に今後取り組んでいったほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

ペットボトルのリサイクル率って、大体日本の全国の平均ですと85%前後ぐらいなんですけれど、ざっとこれ計算すると81%とか令和2年度でそれぐらいになるので、やや全国平均より下回る数字になっているのかなと思います。

なので、リサイクル率を上げていくっていうことと、もう一つはやっぱり排出量を減らしていくリデュースをしていくっていうところが、まず何よりも重要なかなと思います。

一応私は大阪湾で海洋ごみの調査とかをやっているんで、そういう観点からせっかく今日、市民公募の委員の皆様がいらっしゃるんで、少しでも情報共有させていただけたらなと思うんですけど。

大阪湾で見つかるごみの中でもやっぱりペットボトルってすごく多いんですね。

川西市は猪名川の流域で、猪名川っていうのは淀川水系なので、猪名川に排出されたごみっていうのは、流れ淀川のほうに入り込んでいって最終的に大阪のほうに入り込む可能性が結構あるんですけども、淀川の中でもですね、例えば、これ、関西広域連合が出してる資料ですけども、今画面でご覧になられてますかね？

会長 はい、見えています。ありがとうございます。

副会長 すいません。これ関西広域連合の資料ですけど、結構大阪湾の漁業者さんとかですね、底引き網を引くともうペットボトルしか入ってこないよ、っていう話とか、ごみの調査をしても明らかに目につくようにペットボトルがこう、入り込むっていうのは報告されているんですね。

ペットボトルっていうのは、こういう海洋ごみの中でも特に軽くてですね、いろんな、何ていうかな、動かされやすい、波に乗っているんなところに移動しやすい、っていう性質もあるので、日本から出たであろうペットボトルが海外で見つかったりとかもしているんですね。

そういうところも踏まえてですね、なかなか川西市自体には海がないので、海のごみの問題っていうと縁遠く感じるかもしれないですけど、これ赤枠で出てるのが川西市で、知明湖からこう出ていって、ずっとこの猪名川という川が流れているわけですね。

猪名川をずっと下っていくと、もう皆さんご存知かとは思いますが、神崎川と合流して、淀川に繋がって大阪湾に、流れ込んでいくという形になってます。

ここに非常に多くのペットボトルが集積してるという関係にあるので、これも他人ごとではないということ認識してですね、ペットボトルの削減を、SDGsの取組の一環として、川西市としても取り組んでいく必要があるんじゃないかなと思います。

会長 ありがとうございます。

ちょうど今、小学生からもSDGs、今おっしゃっていただいたように、取り組むということになってますので。あと、子どもたちが海洋ごみっていうのをやっぱりすごく聞いているみたいで、マイクロプラスチックとか、だんだん粉々になって、それによって、イルカさんとか亀さんとかがエライことになってるっていう、そういうのはすごく考えるきっかけになっているから、今が良いタイミングかなって思いました。

だから今おっしゃっていただいたその繋がりでですね。

自分の住んでいるところが海から遠いからって言って、無関係ではないという。ただ、イルカさんかわいそう、カメさんかわいそう、で終わっちゃったらそこまでなので、それを、繋がりを考えられるような、投げかけ方、子どもかどうかに関わらず、子ども

だけじゃないと思いますけれども、大人の方にもですね、そういう視点ってすごく大切だと思いました。ありがとうございました。

私も関西広域連合のその調査のデータはいただいているんですけど、大阪湾は外国からのペットボトルってあんまり見つかってないんですかね。

副会長

そうですね、はい。

おっしゃる通りで、大阪湾は瀬戸内海も含めて閉鎖性水域という水域で、要は外の海との物質の交流が少ない、比較的少ない海なんですね。閉じられているので、それであんまりその外国由来のよく海ごみっていうと中国でしょうとか、東南アジアでしょ、みたいに言われること多いんですけど、大阪湾の場合はほとんど国内由来のごみだと思います。実際私が調査してる中でもほとんど全て日本製品です。

兵庫県内ですね、某市から出た、っていうことが特定できるようなごみが見つかることもあるんですね。

会長

え？何か書いてあるんですか。

副会長

そうですね。すごいローカルな事業者さんの電話番号が書いてあるものが出てきたりとか、どっかのスナックの使い捨てライターが、出てきたりとか、マッチとかですね、何かそういう、特定できるようなものもたまに落ちています。

なのでそういうのを実際に見てもらえると、本当繋がってるんだなっていうのは実感して、もらえるんじゃないかなと思います。

我々の調査にも、子どもたちすごいたくさん来てくれていて、なのでぜひ兵庫県からも来てもらえたらうれしいなと思ってるところです。

会長

そうですね、大阪湾はこうぐるっとしてますものね。

事務局

そうですね、はい。

会長

ということは大阪湾のごみは、やっぱりこう変わったら、流入しちゃうってごみが多いってことですね。

副会長

多いと言われてはいますね、6割7割ぐらいは大阪湾に流れている河川流域から出たものだ、っていうふうに言われていますね。

会長

ということですので、そういう観点も含めて、川西市でこれから展開していくっていうことが必要ですね。

ごめんなさい、時間のこと、存じ上げずに申し訳なかったです。

副会長 いえいえ、こちらこそすみません。

会長 でも、貴重な情報ありがとうございました。

副会長 ありがとうございます。

会長 それではですね、これで一応皆様のご意見をお聞きしました。
事務局から何かありますでしょうか。

事務局 2点、その他として、こちらのほうからご報告をさせていただきたいと思います。

1点は冒頭にもご説明させていただきましたけども、今年度、基本計画の策定と、いう予定をしておりましたが、1年遅らせることとなりましたので、来年度の審議会を開催させていただいて、その審議ということをお願いしたいと思っております。

また開催につきましては、新年度に入りましたらご案内させていただきますのでよろしく願いいたします。

それともう1点なんですけども、これは事業の関係なんですけども、今、令和元年度から、川西市では行財政改革を推進する必要があるということで、市の全ての事業について「再検証」で、これから続けるのかとか、もう1回改定をするのか、とか、そういうことの「再検証」を実施しております。

その中で、現在ごみ減量啓発として行っているものの中で、「リユース情報誌『りぼん』」というものと「生ごみ処理機の購入費助成事業」これをやってるのですが、これも事業の見直しの中で、「リユース情報誌『りぼん』」につきましては、現在、民間事業者のメルカリであるとか、ジモティー等が、かなりこれが充実してやっておられるので、これから我々市とする、民間企業や、国崎クリーンセンターゆめほたるさんと、連帯を向け、連帯をしたような取組を検討するというので、この『りぼん』に関しては、来年度からは廃止したいというふうに検討しております。

また、生ごみ処理機の購入費助成の事業なんですけども、これは、個々のごみ排出量の減量効果というのが、なかなか測る指標検証が難しいということで、現在の制度としましては1人、上限1万円の助成をしておりますが、これを見直して、新たな事業といたしまして、例えばごみ減量のモニターを募集して、例えばですけど、いろんな減量の方法で、実際にどれくらい減量出来たのかとか、そういう効果が図れる方法の事業に変えていきたいと、これも検討していきたいと思っておりますので、ご了解をいただきたいと思います。以上でございます。

会長

はい、ありがとうございました。

今のことについて、ご質問ご意見ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

ではですね、来年度の審議会の日程等はもう先のことなので、改めてということ
でよろしゅうございますね。

事務局

はい、その通りです。来年度に入りましたらまたご案内をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

会長

どうもありがとうございました。

進行の不便で、11時30分ということでしたけれども、延びまして大変申し訳ござい
ませんでした。

ご協力のおかげで、無事何とか済ませることが出来ました。

以上でございます。

これで会議のほうは終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。

【閉会】